

**● 草の根協力支援型**

**2015年度 採択内定案件**

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 対象国名	ネパール連邦民主共和国
2. 事業名	女性教師養成制度の構築を旨とするプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	同国の農山村では、少女の就学率が低く、中途退学者も多い。これを改善すべく同団体が10年に亘って支援を行ってきた「おなご先生」の育成が成果を上げたことを受け、今般「おなご先生」をネパール各地域での女子教育のロールモデルとし、さくら寮卒業生教師の赴任地及びパイロット校・地域に公開し、各地域の学校長、学校運営委員会・DEO (District Education Officer) に、さくら寮モデルの必要性を理解させることを目的とした本事業を立案した。 さくら寮モデルによる優秀な女性教師の養成を、ネパール教育省が教育施策の中に位置づけるようになることを究極の目標としている。
4. プロジェクト目標	さくら寮卒業生教師が、さくら寮モデル（日本型女子師範学校）で身につけた、豊かな人間性を育む指導方法を、さくら寮卒業生教師の赴任地及びパイロット校・地域に公開することで、各地域の学校や市の教育関係者等が、さくら寮モデルの必要性を理解する。
5. 対象地域	ダーディン郡、カスキ郡、カピルバストゥ郡
6. 受益者層（ターゲットグループ）	さくら寮生10名、さくら寮卒業生10名、パイロット校（注）の教員29名（児童・生徒357名）、地域の学校16校、（その他、学校運営委員、市の教育関係者）（注）パイロット校1）パトレ：シャンカデビ校（教員17名、児童・生徒165名）パイロット校2）カピルバストゥ：ジャナチエトナ校（教員12名、児童・生徒192名）
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 1.豊かな人間性を育む指導方法をさくら寮卒業生教師が理解し、身につける。 2.豊かな人間性を育む指導方法がパイロット校2校に定着する。 3.豊かな人間性を育む指導方法がさくら寮卒業生教師赴任校に定着する。 4.豊かな人間性を育む指導方法が地域の学校に発信される。 <活動> 1-1.さくら寮での学級経営及び教科指導・情操教育・表現教育・防災教育・保健体育教育（チャウパディ根絶）を実施する。 1-2.さくら寮での卒業生教師へのフォローアップ研修及び教師生活の体験報告・課題解決への取組発表の実施をする。 2-1.さくら寮卒業生教師の赴任校を訪問し、地域の教育関係者に、モデル授業を公開する。 2-2.パイロット校を訪問し、さくら寮モデルの授業を実践する。3-1.さくら寮卒業生が、赴任校でさくら寮モデルの授業を実施する。 3-2.日本留学をしたさくら寮卒業生が、日本での教育研修の成果を取り入れ、ネパールへその経験を広める。4-1.地域の他校教師及び教育関係者等を対象に、パイロット校でモデル授業を公開する。 4-2.パイロット校で研修を受けた教師が地域の学校で研修内容を応用する。
8. 実施期間	2016年10月～2019年9月（3年0ヵ月）
9. 事業費概算額	9,974千円
10. 事業の実施体制	・日本人教育専門家（プロジェクトマネージャー・国内調整員・プロジェクトマネージャー補佐を含む）延べ33名 ・現地業務補助者（ネパール人）2名 ・さくら寮卒業生教師（ネパール人）延べ20名 ・トレーニングティーチャー（ネパール人）延べ10名
<b>II. 応募団体の概要</b>	
1. 団体名	日本ネパール女性教育協会（Japan-Nepal Female Education Association：JNFEA）
2. 活動内容	ネパールの農山村では教育環境が劣悪で、基本的な施設設備及び教材教具が著しく不足している上に、指導方法が画一的で、暗記中心であり、情操教育や表現教育及び保健体育等の授業はほとんど行われていない。また、男尊女卑の意識が根強く、極西部・中西部では、チャウパディ（生理時の隔離）の慣習が残っており、これは未だに女性の人権を侵害している。当団体は、少女の就学率を高め中途退学者を無くすために、ロールモデルとなる自村出身の女性教師を育てることが最重要と考え、今までカニヤ・キャンパス・ポカラ（Kanya Campus Pokhara：KCP）の協力を得て、2年間の教職課程を作り、ネパール極西部・中西部・西部開発地域の遠隔地に、年間10人、10年間で100人の女性教師を誕生させる「おなご先生100人」のプロジェクト（さくら寮モデル）に取り組んできた。卒業生達は、児童生徒の家庭を訪問して保護者を説得し、就学する児童の増加に尽力しており、また、地域の人々を集め、チャウパディの理不尽さ、人としての尊厳を損なうことを語りかけ、チャウパディ慣習の廃止に向けて理解を深める活動を続けている。